

講師プロフィール(講座順)



澤井 祐一

三重県舞台管理事業協同組合 テクニカルディレクター(舞台管理)
劇場舞台管理歴28年。平成9年4月より三重県総合文化センター舞台管理。舞台管理業務以外には、舞台監督(加古隆「熊野古道コンサート」)や舞台美術(烏丸ストロークロック「国道、業火、背高泡立草」等)、高校生(演劇部員)を対象とした「舞台創造講習会」の技術講師を務める。



山中 秀一

三重県舞台管理事業協同組合 副理事長
1973年北海道生まれ。三重大学在学中に劇団設立。舞台音響会社(有)現場サイト取締役。津あげばの座テクニカルディレクター。少年王者館、KUDANproject、このしたやみ、下鴨車窓などの公演に参画。舞台芸術製作の課程すべてを「現場」と捉え、観客・聴衆と表現者・演者を結びつけ、スタッフワークが有機的に機能する製作環境をめざす。



中田 節

株式会社アルファ舞台 代表取締役
1952年京都市生まれ 京都府立鴨沂高校卒業 (株)アルファ舞台 代表取締役 主に日本舞踊・邦楽の舞台装置と狂言方(舞台監督)として現在に至る 京滋舞台芸術事業協同組合 理事長 京都造形芸術大学公開講座「日本芸能史」講師 2010年「第7回上方の舞台裏方大賞」受賞 著書「大道具で楽しむ日本舞踊」(新典社選書)



木藤 歩

照明家
愛知県生まれ。日本大学芸術学部演劇学科照明コース卒業。在学中より小劇場で活動。照明デザイン会社勤務のちドイツに渡る。2008年度文化庁新進芸術家のための留学制度にてベルリンのアートハウスで1年間研修。劇場ではない場での演劇公演の照明デザインを多く手がけ、劇団サンブル、てがみ座、磯島未来や岩淵真太の振付作品等の照明デザインを担当。愛知大学文学部メディア芸術専攻非常勤講師。



谷澤 拓巳

至福団 舞台監督
1979年生まれ。大学の建築学部在学中、舞台芸術に興味を持ち舞台監督に。前川知大(イキウメ)、岩井秀人(ハイハイ)、松井周(サンブル)、野田秀樹、福原充則、小川絵梨子等の演劇作品に舞台監督、演出助手、ドラマーとして参加。他に古館伊知郎、加藤浩次らのライブやコントも手がける。裏方互助会「至福団」に所属し、若手の育成や現場参加を積極的に支援中。



三木 忠一

文化庁長官官房政策課 企画調整官 文化広報・地域連携室長
平成9年文部省(当時)入省。初等中等教育行政に携わる期間が長く、平成19年～22年には兵庫県教育委員会に出向、この3月末まではOECD事務局に派遣。4月から現職にて、文化審議会の事務局、第4次文化芸術基本方針の策定、文化プログラムの企画に従事。



津村 卓

上田市交流文化芸術センター館長 北九州芸術劇場顧問
1985年扇町ミュージアムスクエアを企画、プロデューサー、87年伊丹市立演劇ホール(アイホール)チーフプロデューサー。95年より一般財団法人地域創造プロデューサー。97年びわ湖ホールプロデューサー。03年より北九州芸術劇場プロデューサー。08年より館長を兼務。東京都文化施設指定管理者評価委員、東京都芸術文化評議会文化プログラム検討委員ほか。15年より長野県上田市交流文化芸術センター館長。



野村 政之

演劇制作者/ドラマトウルク/
公益財団法人沖縄県文化振興会 プログラム・オフィサー
1978年長野県生まれ。劇団活動～公共ホール勤務を経て、2007年こまばアゴラ劇場・劇団青年団制作部に入る。並行して、劇団サンブル、劇団ままごと等の公演にドラマトウルクで参加。アサヒ・アートスクエア運営委員、舞台芸術制作者オープンネットワーク理事。2014年10月より(公財)沖縄県文化振興会プログラム・オフィサー。



糸山 裕子

特定非営利活動法人 アートマネージメントセンター福岡 代表理事
高校で演劇を始め、卒業後旧日本長期信用銀行入行。その後東京演劇アンサンブル養成所や劇団を経て帰郷。2004年NPO法人アートマネージメントセンター福岡設立。福岡演劇フェスティバル事務局長。2011年より元ホームレス就労自立支援への舞台芸術からのアプローチ事業開始。「指輪ホテル」(東京)制作。本年春より福岡県立ももち文化センター館長。

(撮影：野村佐紀子)



吉本 光宏

株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事
1958年徳島県生。文化施設開発やアートワーク計画のコンサルタントとして活躍の他、文化政策、創造都市、五輪文化プログラム等の調査研究に携わる。文化審議会文化政策部会委員、文化庁2020年に向けた文化イベント等の在り方検討会座長、東京芸術文化評議会評議員・文化プログラム検討部会会長、文科省オリパラ教育に関する有識者会議委員等。



吉野 さつき

愛知大学文学部 准教授
英国シティ大学大学院にてアーツ・マネージメントを学ぶ。公共ホール勤務、英国での研修(文化庁派遣芸術家在外研修員)を経て、フリーランスのコーディネーターとして、教育、福祉などの現場でアーティストによるワークショップを数多く企画。アウトリーチ事業やワークショップの企画運営を担う人材育成プログラムにも各地で携わっている。



新井 英夫

体奏家、ダンスアーティスト DANCE-LABO KARADAKARA主宰
劇団活動主宰を経て、1997年より国内外でダンス活動を始める。自然に学び力を抜く身体メソッド・野口体操を創始者野口三千三氏より学び深い影響を受ける。舞台活動との両輪として、乳幼児から高齢者まで障がいの有無に関わらずバリアフリーな身体ワークショップを教育・福祉・社会包摂の現場で実施している。天理医療大学等にて非常勤講師。料理と落語好き。



坪池 栄子

株式会社文化科学研究所 地域創造レター、雑誌「地域創造」、Performing Arts Network Japan 編集プロデューサー
1955年広島県生まれ。びあ、びあ総合研究所を経て現職。情報誌「びあ」演劇記者として80年代の小劇場ブームを取材。1995年に地域創造レター雑誌「地域創造」(地域創造発行)を立ち上げ、文化芸術による地域づくりを紹介。2004年に日英バイリンガルのウェブマガジン「Performing Arts Network Japan」(国際交流基金発行)を立ち上げ、国内外の舞台芸術シーンを紹介。2004年より総務大臣賞「地域創造大賞(旧JAFRAアワード)」選考委員。



八巻 寿文

せんだい演劇工房10-BOX 工房長
1956:仙台市に生まれる。1975:トグラフを学ぶ(フランス)、1978:舞台照明の仕事につく(東京)、1982:美術家として各地で活動、1997~98:文化庁芸術家在外派遣事業によりベルギーのサーカス学校や障害者のアートセンターなどで活動、2001:パリにて現代美術展を開催、2001:せんだい演劇工房10-BOXの計画段階から参画、2005:せんだい演劇工房10-BOX二代目工房長。※2001年日本照明家協会奨励賞受賞、2006年度宮城県芸術選奨受賞



吉田 雄一郎

城崎国際アートセンター プログラム・ディレクター
1979年、兵庫県出身。東京理科大学工学部建築学科卒 トーキョーワンダーサイトにて現代美術のアーティスト・イン・レジデンスに携わり、フェスティバル/トーキョー(2010~11)、マレビトの会(2012~)の制作等を経て、2015年4月より現職。



宮永 琢生

演劇プロデューサー
1981年東京都生まれ。劇団「ままごと」プロデューサー。企画制作ユニット「ZuQnZ(ズキューズ)」主宰。2007年~2011年まで劇団「青年団」の制作に携わり、2009年に劇作家・演出家の柴幸男と共に劇団「ままごと」を立ち上げる。また、2013年よりTPAM(国際舞台芸術ミーティング)においてディレクターを務めている。近年は、劇場公演のプロデュースと共に劇場空間外での作品創作を積極的に行っている。



中尾 知彦

慶應義塾大学 准教授
愛知県生まれ。慶應義塾大学文学部美学美術史学科卒業。シンシナティ大学音楽院大学院修了ならびに同大学経営大学院修了。群馬交響楽団、東京シティアフィルハーモニック管弦楽団事業部長、静岡文化芸術大学准教授を経て、現在慶應義塾大学准教授。著作に「アーツ・マネージメント概論 三訂版」(共著)等がある。



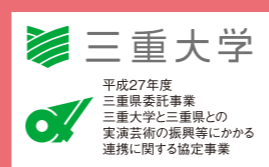
恵志 美奈子

世田谷パブリックシアター 劇場部学芸
ニューヨーク大学大学院卒。東南アジア5ヵ国との国際共同制作プロジェクト(2001~2007)、「パブリックシアターのためのアーツ・マネージメント研修」(2007~2010)等を担当後、現在は世田谷パブリックシアターの普及啓発事業、人材養成事業全般の企画運営を担う。



南波 圭

俳優/なんばしすたーず・NPO法人演劇百貨店・世田谷パブリックシアター契約ファンリテーター
蛭川幸雄、平田オリザ、チェルフィッチュ等の作品に出演し、世界各国の演劇フェスティバルに参加。また、実の妹の南波早との演劇ユニット「なんばしすたーず」での活動を開始し、全国各地に出発中。その他、世田谷パブリックシアターなどの劇場、学校・美術館などで演劇ワークショップのファンリテーターとして活動。



アートと社会を繋ぐ 舞台芸術振興のための アートマネジメント人材育成講座

舞台技術講座

9/1 tue _ 9/2 wed

MIE CENTER FOR THE ARTS
三重県総合文化センター 三重県文化会館 小ホール

アートマネジメント講座

9/7 mon _ 9/10 thu

三重大学 三重大学 人文学部 校舎

受講料無料・申込制

